

令和 4 年度 学校経営環境分析書

両城中学校区 校番 19 学校名 呉市立両城小学校

1 学校の内外環境の分析

外部環境	O (支援的要因)	【保護者・地域】 ・地域・保護者に卒業生が多いため、愛校心が強く、大変協力的である。 ・児童の登下校の見守り体制が整備されている等、地域全体で子供を育てる意識が強い。 ・校区は広くなく、歴史を感じさせる事物や様々な分野でゲストティーチャーとなる人材も多い。 ・呉駅が近くにあり、交通の利便性が高い。 ・中学校区で情報共有し、取組に系統性がある。 【市教委】 ・「呉の学校教育」に基づき、学校に対する指導・支援がある。 ・ICT 環境を整備している。	S (強み)	【学校】 ・職員数が少ないため、意思疎通が図りやすい。教職員の意識が同方向を向いており、協力体制がよくできている。 ・施設の老朽化は進んでいるが、備品の整備は充実している。 ・児童数が少ないため、一人一人に目が良く届き、しっかりと関わりきることができる。 【児童】 ・縦割り班活動を通して、互いをよく知っており、学年を超えてつながりがある。特に、高学年が低学年の面倒をよく見る。 ・児童が素直であり、指示されたことに対して受け入れ、取り組む。	内部環境	支援的要因と強みを生かした活動・取組は ○地域の特性・人材を活かした体験的活動を推進する。 ○全教職員で意識統一し、組織的な取組を推進する。 ○一人一台のタブレットを効果的に活用し、考え表現する児童を育成する。 ○スキルタイム等、個別指導を充実させて基礎的な学力を付ける。 ○両小タイムや掃除等の縦割り班活動を充実させ、異学年交流を進める。 ○小中一貫教育を推進する。
	T (阻害的要因)	【保護者・地域】 ・地域の高齢化が進んでおり、各地域団体の後継者不足は深刻である。 ・土砂災害警戒区域、洪水警戒区域、津波警戒区域が校区内に混在しており、防災教育の充実が急務である。 ・中学校とは距離は近いが急傾斜地の上と下のため、児童生徒の頻繁な交流は難しい。小学校同士は距離が遠い。 ・近年、教育力の低い家庭が増えてきている。 ・踏切や交通量の多い国道等、安全面で配慮の必要な場所が多い。	W (弱み)	【学校】 ・教職員数が少ないため、分掌内容等一人一人の負担が大きい。 【児童】 ・児童の人間関係が固定化しやすくトラブルが継続することがある。 ・切磋琢磨できにくいいため、向上心に欠ける面や打たれ弱い面がある。 ・はっきり自己主張したり、主体的に活動したりすることが充分でない。 ・思いを相手に伝える等、人間関係を上手く構築できない児童がいる。 ・特別な支援の必要な児童の内、保護者の理解が得られず適切な支援が受けられていない児童が複数在籍している。		○組織のより効率的な機能化のために、業務改善を一層推進する。 ○縦割り班活動や学校行事を通して自他を大切にする人間関係づくりを推進し、自己肯定感を高める。 ○単元を貫く学習課題を設定し、対話活動を工夫する等、主体的な学びにつながる単元づくりを行い、授業改善を進める。 ○各教科・領域において防災教育を充実させる。 ○特別支援教育を推進する。

阻害的要因と弱みを克服する活動・取組は

2 重点課題

- ① 中学校区で育成すべき資質・能力の育成に向け、主体的な学びを実現する授業改善を推進する。
 - ・ 主体的な学びにつながる単元づくり ・二川授業スタイルの充実
- ② 自己肯定感を高める取組を推進する。
 - ・ 縦割り班活動の充実 ・ 生活目標等達成の主体的な取組
- ③ 自己の課題を明確にして健康増進、体力向上を図る。
 - ・ 基礎体力の向上 ・ 生活リズムの確立 ・ 防災教育の充実